



# 先生たちの見た アナーバー

姉妹都市学校事情

その②

外国の教育事情や文化、生活習慣などに直接触れ、国境を越えた広い視野で新しい教育を見つければ、**国教育委員会**では市内の先生たちを海外へ研修派遣しています。昨年は、10月21日から11月3日までの14日間、市内の小学校の先生3人が、姉妹都市アナーバーでアメリカの教育を視察しました。

先生たちが見たこと、聞いたことを紹介していただきます。  
問い合わせ先 **国教育委員会学校教育課**

☎ 7971番 FAX 9190番

## 教育活動を支える「自由」「規律」「責任」

平田小学校教諭 小林豊とよ司

アナーバー市は、文化の薫り高い落ち着いたまちでした。行き交う人の表情もどこか穏やかで、街路樹の美しさといま、人々の温かい心遣いが身に染みましました。地域社会ががもし出す教育風土の重みを感じました。

アナーバーのまちを歩いてみると、通り過ぎる人たちが外国から来た私に何のためらいもなく「Good Morning」お



はよう」と声を掛けてくれま  
す。また、街角で肩が触れると、必ずと言っていいほど「Sorry  
(失礼)」の言葉が返ってき  
ます。人々のあまりにも自然な様子に驚く  
とともに、大人社会にこれほど徹底して  
いる礼節感や社会的  
ルールは、一体、どこか  
ら来るのだらうと感じました。  
こうした思いを胸に学校を訪  
問すると、そこには、米国社会



車座になったの授業風景

が大切にしているものの原型と、そうせざるを得ない社会状況を認めることができました。

### 個人の尊重と厳しさ

アナーバーには、世界中からいろいろな国籍の子どもたちが集まっています。まさに多国籍の学校です。肌の色はもろろん、言葉も習慣も異なる子どもたち。その子どもたちが受ける授業の風景は、私語一つ聞かえてきません。みんな、教師の言葉に集中しています。そして、発言をする場合は、堂々と自分の意見を述べます。たとえ一度授業がわきたつても、教師の一言で静まりかえります。また、各学校によって若干の違いもありますが、基本的にチャイムはなく、各クラスごとに休憩時間を取っていました。しかし、隣

のクラスに迷惑になるような行動は見られません。他人に迷惑になる行為は厳しく慎むことが求められているのです。そうした面の規律は、想像以上に厳しいものでした。

「食べることと排泄は生理的欲求ゆえに基本的に個人の自由」で、そのため、授業中、席を立つ場面は見られませんが、用を済ませばもとの学習に戻ることが出来ます。「他の尊重」の精神が生活の根幹部分で実に厳しく問われていることを肌で感じました。現在、日本でとらえられている「自由と責任」とは全く質が異なるものです。日本でも、学習に必要な「規律と責任」を「自由」とのかかわりの中で問い直さなければならぬと感じました。

少人数で弱点を補う授業



### 役割の大きい カウンセリング担当教師

ある中学校を訪ねたときのことです。子どもたちの学校生活を支えている、カウンセリング担当の教師に話を聞くことができました。カウンセリング教師は、週1時間の授業で、年間を通して子どもたちに「自尊心」を育てているとのことでした。「学校にいて心地よいか」「自己の能力向上に努めているか」「何事にも実行力を発揮しているか」などを各自に問わせ、「学校で成功する知恵」「人の言葉に耳を傾けることの大切さ」「状況に応じた行動の取り方」などについて具体的に教え、学校生活を支援しています。こうした取り組みの大切さも、見逃してはならないと感じました。

今回の海外研修は、私にとっ  
てまさに「百聞は一見にしかず」  
とのことわざ通り、新鮮で生涯  
忘れることのできない貴重な体  
験となりました。自分自身のこ  
れまでの教育実践を外の目から  
見つめ直し、さらに広い視野か  
ら吟味することの必要性を認識  
するよい機会となりました。こ  
の有意義な体験を、これから接  
する子どもたちに、少しでも還  
元していきたいと考えていま  
す。